



発行所
日本工業大学
広報課
埼玉県南埼玉郡宮代町
郵便番号 345
電話 0480(34) 4111

いよいよ本格化 外国留学生の受け入れ

学長ら東南アジア視察

本学では、かねてから外国人留学生の受け入れについて検討を重ねてきたが、昨年十一月、三浦副学長らが東南アジアを訪れ、各地を視察するなど、いよいよその動きが活発化してきた。

視察団は、三浦学長のほか、廣瀬治男教務部長補佐、藤田則夫教務課主任で、十一月二十四日成田を発ち、十五日間の行程で、インドネシア、シンガポール、マレーシア、タイ、台北を訪れ、各地の留学状況や教育事情などをつづり、学長らと中国人が各一人と

(3) 総合 13版 1986年(昭和61年)1月1日 水曜日 享月

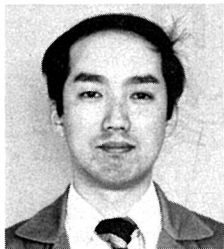
お酒からダイヤモンド合成

日本工業大学の成長速度速く安価

ダイヤモンドは、自然界では極めて希少な宝石で、工業上でも重要な材料とされている。本学では、お酒からダイヤモンドを合成する技術を開発し、その安価な生産を実現している。

この技術は、お酒に含まれる炭素を、高圧・高温の条件下で処理することで、ダイヤモンドに変換させる。従来の技術に比べて、コストが大幅に削減されており、大規模な生産が可能になると期待されている。

グッドアイデア 注目される広瀬助教授



電気工学科広瀬洋一助教授は、次世代の新材料と目されている工業用ダイヤモンド薄膜の合成に成功し、大きな反響を呼んでいる。

同助教授は、四年前からダイヤモンド薄膜の作成に着手し、CVD装置を自作するなど、地道な研究を続けてきた。その結果、工業用のダイヤモンド薄膜の合成に成功し、その品質とコストが従来の方法と比べて大幅に向上していることが確認された。

この成果は、半導体、太陽電池、防弾装甲など幅広い分野に応用が期待されており、国内外の企業から高い関心を寄せられている。広瀬教授は、今後もさらなる技術開発に取り組む意向を示している。

卒研究生〃院生〃らと ダイヤモンド新合成法開発

電気工学科広瀬洋一助教授は、次世代の新材料と目されている工業用ダイヤモンド薄膜の合成に成功し、大きな反響を呼んでいる。

同助教授は、四年前からダイヤモンド薄膜の作成に着手し、CVD装置を自作するなど、地道な研究を続けてきた。その結果、工業用のダイヤモンド薄膜の合成に成功し、その品質とコストが従来の方法と比べて大幅に向上していることが確認された。

この成果は、半導体、太陽電池、防弾装甲など幅広い分野に応用が期待されており、国内外の企業から高い関心を寄せられている。広瀬教授は、今後もさらなる技術開発に取り組む意向を示している。

59年度決算・60年度予算報告

第十八期決算・第十九期予算が、公認会計士・法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認・決定されました。

ここに財務諸表を、公開して関係各位のご理解と協力をお願い致します。

近年、大学は国家の財政事情による補助金の削減、教育の多様化、学生数の激減等数多くの問題に直面しています。この展望の中で、本学も社会の要請に応えながら発展を目指してまいります。

いたすに虚名を求めることなく、オゾンドックスなど、即ち研究活動の活発化が、教育活動を充実させていくこと

田中講師にPh.Dが授与

昭和六十年十月一日、本学教養科の田中知英講師に米国カンサス州立大学教養学部から博士号(Ph.D)が授与されました。

田中知英 博士論文は「The Effectiveness of Psychoanalysis in Reading Method for Japanese College Students」

59年度決算・60年度予算報告

前年度に引き続き、研究活動の振興を目指した予算編成が行われた。

個々の教育職員に予算配分される研究費等六千五百万円と併せて、個々の研究に対する、特別研究費及び旅費が五千五百万円計上され、機器の保守経費として別途に三千五百万円を計上している。

機器等の設備については、学科学科・センターの設備として一億七千万円、特別研究設備として二億四千万円が予定されている。

昭和59年度資金収支計算書			
収入の部		支出の部	
学生納付金収入	2,393,505,000	人件費支出	1,490,154,926
授業料	1,414,970,000	教育研究費支出	494,672,385
入学金	179,000,000	施設関係支出	530,074,510
実験研究費	191,930,000	設備関係支出	655,423,157
施設設備拡充費	607,605,000	管理経費支出	108,889,000
手数料収入	81,469,850	借入金等利息支出	57,222,771
寄付金収入	41,495,960	借入金返済支出	63,970,000
国庫補助金収入	689,749,000	その他の支出	257,989,563
資産運用収入	155,470,132	未払金	22,190,296
資産売却収入	244,200	退職金特定資産繰入	28,827,972
事業収入	3,977,100	建設引当金	70,094,162
雑収入	16,294,588	育英基金金	27,859,310
借入金収入	287,000,000	国際交流基金金	9,019,009
学費前受金収入	906,557,000	その他支出	99,998,814
未収金収入	42,777,810	資金支出調整勘定	△52,370,087
その他の収入	53,051,688	未払金控除	△52,370,087
資金収入調整勘定	△ 917,977,600	次期繰越資産	1,269,105,282
学費前受金控除	△ 843,401,000		
未収金控除	△ 74,576,600		
前期繰越資産	1,141,516,779		
収入の部合計	4,875,131,507	支出の部合計	4,875,131,507

59年度決算について

年度内の、全ての収入と支出を表示している資金収支計算書と期末における全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表を公表した。

施設

九号館新築(電気実験センター・材料試験センター)・超高電圧実験棟新築・四百メートルトラック工事等が実施された。

設備

結晶解析装置・CADシス

60年度予算について

前年度に引き続き、研究活動の振興を目指した予算編成が行われた。

個々の教育職員に予算配分される研究費等六千五百万円と併せて、個々の研究に対する、特別研究費及び旅費が五千五百万円計上され、機器の保守経費として別途に三千五百万円を計上している。

機器等の設備については、学科学科・センターの設備として一億七千万円、特別研究設備として二億四千万円が予定されている。

施設計画

合宿棟が完成して、利用が開始され、その他実験棟の新築が予定されている。

教育研究経費

教員研究経費・学生研究経費が、所属収入に占める割合は、二一・七%から二六・〇%に増額した。

カメラ等を購入した。

貸借対照表			
資産の部		負債の部	
固定資産	6,449,122,218	固定負債	1,523,760,127
土地	932,284,451	長期借入金	976,970,000
建物	2,051,065,980	退職給付引当金	546,790,127
構築物	327,325,400	流動負債	1,095,765,404
教育研究用機器	2,553,745,687	短期借入金	65,260,000
その他機器	21,989,723	未払金	52,370,087
図書	416,150,690	前受金	906,557,000
車	9,280,287	預り金	71,578,317
建設仮勘定	137,280,000	基本金の部	
その他の固定資産	1,726,587,461	基本金	8,001,753,311
電話加入権	1,047,094	消費収支差額の部	
有価証券	500,000	消費支出超過額	△1,085,328,301
退職給付引当特定資産	455,146,397		
建設引当特定資産	1,126,025,399		
育英基金特定資産	114,885,162		
国際交流基金特定資産	9,019,009		
その他資産	19,964,400		
流動資産	1,360,240,862		
現金預金	1,269,105,282		
未収入金	74,576,600		
仮払金	16,558,980		
合計	9,535,950,541	合計	9,535,950,541

昭和60年3月31日現在

昭和60年度資金収支予算書			
収入の部		支出の部	
学生納付金収入	2,559,502,000	人件費支出	1,580,510,000
授業料	1,530,593,000	教育研究費支出	610,865,876
入学金	178,000,000	施設関係支出	519,990,000
実験研究費	200,806,000	設備関係支出	549,568,280
施設設備拡充費	650,103,000	管理経費支出	136,772,000
手数料収入	21,800,000	借入金等利息支出	75,000,000
寄付金収入	29,150,000	借入金返済支出	65,260,000
国庫補助金収入	626,600,000	その他の支出	480,493,404
資産運用収入	112,500,000	未払金	52,370,087
資産売却収入	0	預り金	71,578,317
事業収入	2,500,000	基本金引当特定資産	138,562,000
雑収入	16,000,000	80周年事業積立金	60,000,000
借入金収入	197,000,000	その他	157,983,000
学費前受金収入	920,680,000	予備費	80,000,000
未収金収入	74,576,600	次期繰越資産	840,956,302
その他の収入	16,558,980		
資金収入調整勘定	△ 906,557,000		
学費前受金控除			
未収金控除			
前期繰越資産	1,269,105,282		
収入の部合計	4,939,415,862	支出の部合計	4,939,415,862

石井治

この技術分野は、この頃貿易摩擦のやかましい半導体メモリ、磁気テープ、磁気ディスク、これからの新しい情報メディアといわれる光ディスクなど、技術基盤が広範囲にわたるので、その日の講演主題によって、ある程度聴講者の入れかわりがみられた。

英語が達者である。
中に数人は日本語を習っている人もいて、直接わかるようなので通訳も大変である。
(劉さんご苦労さん、辛苦了！)

近く訪日の予定の決っている人もいて、休憩の時間や講演後の帰りがけに日本語会話の実地を試みる、という具合だ。

（情報技術センター長・教授）

技術討論会(右から二人目が石井教授)

機械加工I研究室

これらの研究テーマについては、企業も数社関係しており、卒研を行なっている研究生が、そのまま、その会社に就職というケースも多々あります。

さて、もう一つの大きなテーマであるSL（模型）等の製作であるが、本学構内図書館裏庭に、直線四〇SLとして、国産初といわれている九六〇形を一台、熱効率を上げるため、ボイラを銅製としたC九六形を一台製作しましたが、火加減・水加減が難しく運転操作に慣れるまで相当期間が必要なようです。

この欠点を補うために、DLと称するガソリンエンジンとしてDLでしたが、当初は、はたして動くのかと思ひながら製作したSLそしてDLでしたが、動

○米、材料試験センターのまわりに、二〇〇米のルーブ状のレールが設置されています。これはレール幅が五インチ（一二七ミリ）で、このレールの上を、カカ程度の模型の機関車が、大人でも五人程度乗れるようになった客車を、引いて走れるようにしたものであります。

ジンで動くD110形を製作し、お客様の待ち時間をできるだけ少なくするようにしました。

しかしながら、年々お客様がふえる一方ですので、さらに運転性能のよい、D511形およびバッテリーで走るEF65形を現在製作中であります。

いた瞬間は皆で大喜びしたものです。その感動もつかの間、今度は脱線や故障の連続で、改良に改良を重ねるようになりまして、
今年度の若杉祭でも皆様の御参加・御試乗をお待ちしております。

（講師・伏見恒夫）

異動

教授 伊藤隆 (いとう・たか)



昭和七年五月二十一日生。

三十一年在日本文学専任講師として就任。四十四年四月、本学専任講師として就任。四十九年四月、助教授となる。シエイクスピアの研究を中心に演劇研究に関する執筆を進めている。

60年度

☆永久歯の崩出と心身の発達

☆原子・分子の寿命測定実験 における自動解析システムの 開発	和田 敏一 清島 達郎	難波 恒夫
☆プラズマ中の非線形波動の 研究	柳下崇ほか	榎田 昇
☆可変流量ラジアルタービン の研究	松木正勝ほか	☆局所水動力利用、回収に関 する研究
☆ピストンクランク機構の振 動測定装置の開発	也田義佳ほか	☆住工共存システムと地域枝 術システムに関する研究
		☆半群論の研究
		竹内 淳彦
		齊藤 亨

☆超精密軸対称ノズルの研究 藤崎 雅彦	☆D-I製法による高精度円筒の製作 村川正夫ほか	☆通気性セラミック型の研究 柳沢 章	☆溶解溶接における熔融金属 ☆浴形舞ツールによる歯切り
------------------------	-----------------------------	-----------------------	--------------------------------

の流動機構と熱・物質輸送の	横谷真一郎	長田重慶ほか
解明		
☆二要素法による超音波流量	廣瀬 治男	☆W・N系最適歯形の研究
計測法		有賀 幸則
☆異方性Ca—La—Nd系フェラ		☆パーソナルコンピュータを用いた光弾性縞の自動応力解

◎建築学科主任
吉岡丹教授（よしおか・まこと）
（昭和六十年十月一日付）
◎教養科主任
川副富男教授（かわぞえ・とみお）
（昭和六十一年四月一日付）

超高電圧放電研究
センター長

岩瀬勝教授―新任・昭和六十
年七月一日付

▽退職



木村啓三助教授（数学）
昭和六十年九月三十日付

兼子美智子（教務課・教養科
事務室）
昭和六十年十二月三十一日付

析

☆装置の開発 梅崎 栄作
 ☆放電開始に必要な初期電子の生成過程 佐伯 正盛
 ☆螢光灯用電子スタータの解 泰野真左親

☆2方向同時X線撮影法の各種骨形状解析への応用 大川陽康ほか
 ☆コミュニケーションの試作 玉木保ほか
 ☆レーザ加工に関する研究 小倉勝ほか
 ☆ダイヤモンド薄膜の合成 宮沢 肇
 広瀬 洋一

☆三元系鉄合金のスピンノード境界付近における相分解挙動と準安定析出相について	佐藤茂夫ほか	☆筋力増幅装置付車椅子の研究	片山 滋友
☆地下水位の変動に伴う粘性土地盤の圧密沈下挙動	桑原 文夫	☆波の周波数分析	谷沢 茂
☆風力エネルギー利用技術に関する研究	町山忠弘ほか	☆イオン注入シリコンのランブアニーリングにおける注入不純物の増速拡散	石川 豊
		☆構造物接合部の耐震安全性に関する研究	北後 寿
☆半導体薄膜がバグの閉塞		☆真空回路の空気質と関係	

☆半導体薄膜ラミネートの開発とその評価ーフオートルミネッセンス法による超格子の評価ー	鈴木 敏正
☆総合病院の空気を暖に保つ研究	榎井 武一
☆ロボット視覚・触覚機能による知能化の向上	波多野 純
☆江戸の都市設計に関する研究	檜井 武一

☆北海道地区の湿原環境調査とその評価システムの確立	西田 英郎	☆人工知能の研究	長谷川 洸
☆熔融溶接における溶融池の物性とアーク、溶滴移行、溶研究	☆異種L AN接続におけるインタフェース・プロセスサの飯倉 道雄	宮井 正弥	

☆生産能力可変な生産系の研究
 ☆マルチCPUによる制御技術の研究
 ☆プレスシェーピング加工法による歯車製作
 ☆歯車製作の自動化

華中工学院から
客員研究員来学

華中工学院から新たに客員研究員二人が来学し、それぞれ客員研究員第一陣の劉正林

れの研究テーマに取り組んでいる。この二人は、同学院機械製造系の林彦鴻助教と劉明光講師である。林氏は、石大学研究報告・第十五卷第二

井治教授のもとで、多微型計算機システムとその応用などについて、劉氏は長谷川洗教授のもとで、ロボット全般について研究をそれぞれ進めている。研究期間は、約一年間である。

号」に、「C言語を用いたクランクバランスシグナ生産ラインのマルチCPU制御」（劉氏）と「日本のTQCと中国のTQC」（歐陽氏）の論文題目で掲載された。

華中工学院から
客員研究員来学

華中工学院から新たに客員

死員二人が来学し、それぞ

の研究テーマに取り組んで

この二人は、同学院幾

製造系の木突鳴功致受と割

型近きの木を江戸に奉仕とせしむる。木天竺、三

方計師である 木戸に石

活教授のもとで 多微型言

機システムとその応用など

劉氏は長谷川洸教

のもとで、ロボット全般に

いて研究をそれぞれ進めて

る。研究期間は、約一年間

ある。



授業の一コマ(中央が加羽沢君)

カナダ・UBC 短期留学記

感動の思い出

電気工学科三年 加羽沢 正

(埼玉県立大宮工出身)

「やホストファミリーの人のちが笑顔で温かく私たちを迎えてくれた。そこで、コーデネーターのベラさんから今後の日程、キャンパスの案内、ホームステイなどの説明があったが、とても彼女の英語を聞き取れる状態ではなく、もっぱら上村さんの通訳に懸命に耳を傾けた。こうして、私たちはこれから三週間お世話になるホストファミリーの人たちに連れられて、各ホームステイへと散らばって行った。私の入ったデスマ一家は、おばさんと左半身が不自由で車いすに座ったきりのおじさん。それにまたまその時期にデスマ家に遊びにきていたケルシーという九歳の男児と彼の父と姉。五人が住んでいた。私と同居したのは、機械工学科三年の山口憲一君。学科が違うこともあって、彼は初対面。あいさつをすませながら、それぞれの部屋へ案内され、荷物の整理に取り掛

かっているとき、ケルシーが遊びにきたので、簡単な英語と文法を使って彼と話してみた。彼の反応や態度をみて、自分の英語も一応通じているのではないかと、何やら自信めいたものが感じられた。その日、カナダでの初めての夜。夕食を食べた七時を過ぎたが、太陽はまだ西の空で、さんざん輝いているではないか。これを見て、やっと、自分が今いるのはカナダなんだ、という実感がわいてきた。結局、日が暮れたのは九時過ぎで、日本と違う日の長いカナダの生活が始まった。

翌日は、BCデーという州民の日、休日だった。ケルシーのBMX(自転車のモトクロスのようなもの)を見に行こう、ということでホストファミリーの人たちと少し北の方にある公園に行った。いよいよ頼れる日本人が周囲にいない、英語の世界に入ってしまった。ここで、困ったことがあった。トイレに行きたかったので、何と云おうかと辞書を引いてみたが、トイレに該当する単語がいろいろあり、どこにあるかを尋ねても、相手によく理解されなかったようだ。ケルシーのお父さんに聞いて、やっとの思いで用を足した。この時はやはり、早く大学へ行って、同じような言葉の多さを感じてくると、自由な生活を送りたい、という気持ちでいっぱいだった。案の定、翌朝、教室はみんなの苦労話で満ちあふれていた。大学での授業は、簡単なクラス分けテストで分けられた十五人ずつの二クラスで編成。午前中、一時間半単位の授業

ろな情報を提供してくれたおかげで、私たちのアドベンチャー活動に大いに役立った。一方、シェリル先生の方は、日常会話はもちろん、会話するうえで、忘れてはいけない英文法を中心に教えてくれた。彼女たちの教えが効を奏しはじめたせいか、徐々に友だち同士でダウンタウンに出かけて行き、おみやげを買ったり、映画を見たり、ディスコで踊ったりするようになっていった。そんなある日、ケルシーのお姉さん、サマンサのバースデーパーティがあった。私と山口君はケルシーとプレゼンターの相談をして、近所のマーケットストアへ行ったら、バスケットを買った。サマンサは、私たちのプレゼントを大変喜んでくれた。パーティにはほかのお客さんも来ていた

ので、その人たちに東京の絵葉書をあげて、一枚一枚説明してあげたら、大方は分かってもらえたようだ。このころになると、もう英語を使う不安より、むしろどんどん使っていく自信をつけていきたくて、思う気持の方が強くなっていった。こんなことをしながらかなり家の中へ駆け込んでいた。とうとうケルシーの家族が家へ戻る日が近づいてきた。カナダアンロッキーへ観光に行く私は、ケルシーと彼の夢の話や日本の生活などを話し合った。最後にケルシーは「Never say again」と、悲しそうに聞くので、私は、また会えるよ、と言って言葉を濁した。そして、遠ざかっていく車の窓から身を乗り出して、涙ぐんで叫び続けるケルシーを見たら、ジーンと胸が

目標をたてて参加

機械工学科一年 飯 昭 夫

(新潟県立中条工出身)

私が今回の短期留学に参加しようと思ったきっかけは、父が三年前に研修旅行でヨーロッパ五カ国を訪ねて、研修もそうだが、いろんな面で勉強になったことを以前聞かされていたし、それに刺激されたわけではないうえ、一度は行ってみたいと思っていた海外に簡単にできるチャンスがあった。ケルシーのお父さんに聞いて、やっとの思いで用を足した。この時はやはり、早く大学へ行って、同じような言葉の多さを感じてくると、自由な生活を送りたい、という気持ちでいっぱいだった。案の定、翌朝、教室はみんなの苦労話で満ちあふれていた。大学での授業は、簡単なクラス分けテストで分けられた十五人ずつの二クラスで編成。午前中、一時間半単位の授業

のわすれかたであろう。とりもなおさず語学力を増やすように努力しよう、ということ。第二に、全行ったことのない国では、その風土や生活内容において、日本とは異なるだろうから、その違いを認識して帰ろう、ということ。第三に、将来、いずれ海外へ行くことになるかもしれないので、そのための下準備みたいなものができればよい、ということであった。

短期留学を終了した結果、私自身にとって、この短期留学は大いにプラスになったように思う。前述の三つの目的をそれなりに果たしたからである。私は、参加学生中唯一の一年生だったので、ホームステイ先のカナダ人や本学の先輩

の持て成しに、さすがの矢崎あまの慌ただしさに、ただぼう然としてしまったのを今でも覚えている。思い出多いバンクーバーを後にして、私たち一行はアメリカはカリフォルニア州サンフランシスコ、ロサンゼルスへと移動した。こちらは、いわゆる観光旅行で、両市内観光と自由行動といったありふれたパターン。自由行動では多少の不自由さはあるにせよ英語の世界で、好きな所へ行

って無事に帰ってこれる程になっていた。各人それなりに語学研修の成果が得られたものと思われた。帰国の前日、オブショナルツアーで行ったディズニーランドでは、ほとんどみんなの顔に満喫した笑顔を見つけたのは私だけではないかと思われた。最後に、まだまだ書き切れないうえに、思い出をたくさん残したホストファミリーの人たちやUBCの関係者に深く感謝を申し上げます。

60年度 国外研修一覽

- ☆岩隈利輝講師「中国黄河流域洞民家村落とラサキ昆明の民居学術調査」(4/21-5/12 中国、チベット)
- ☆池田雄雄教授「日中友好ヒートパイプシンポジウム出席と中国ヒートパイプ事情調査」(4/28-5/12 中国)
- ☆三浦朝郎学長・長田重慶教授・岩瀬勝教授・野村隆主任「金鳥工科大学訪問」(4/28-5/5 韓国)
- ☆山田忠弘教授「EURD(欧州研究開発共同)エネルギー工学部門最終セミナー」(5/11-5/19 西ドイツ)
- ☆豊田昇教授「第38回SPSE(アメリカ写真学会)年次大会での研究発表」(5/14-5/21 アメリカ合衆国)
- ☆山田忠弘教授「EURDプラントエンジニアリング部門最終セミナー」(5/11-5/19 西ドイツ)
- ☆長谷川嗣彦助教授「DDR大学教員ゲルマニウム夏季講習会」(7/17-9/13 東・西ドイツ)
- ☆長田重慶教授「韓国中小企業振興公社研究会、企業の実態視察」(9/8-9/15 韓国)
- ☆御所東七教授「第8回放電、その応用国際会議での研究発表」(9/13-10/5 イギリス、フランス)
- ☆大久保勝弘教授・高橋篤夫教授・青木収教育技術員「第31回電気接点に関するホルム会議での研究発表」(9/26-10/8 アメリカ合衆国)
- ☆松本正勝教授「第7回空気吸込エンジン国際会議での論文発表」(9/1-9/8 中国)
- ☆岩隈利輝講師「西欧農村整備現地研究、日独農村計画学会共同研究会での研究発表」(8/25-9/9 フランス、西ドイツ、スイス)
- ☆土野一清教育技術員「国際工作機械展、工作機械メーカ一視察」(9/13-9/27 西ドイツ、フランス、イギリス、スイス)
- ☆伊藤庸一講師「香港上海銀行、高層集居アパート見学、中国・中山の民家集落視察」(8/21-8/24 中国、香港)
- ☆辻陽一助教授・京野晴郎主任「カナダ短期留学の引率・指導」(8/4-8/29 カナダ、アメリカ合衆国)
- ☆藤崎雅彦講師・荒井英明課長「学生ヨーロッパ研修旅行の引率」(8/21-9/11 ヨーロッパ各地)
- ☆大川陽康教授・鈴木昭正課長「タイ王立工科大学視察、留学生受入れに関する調査」(7/24-7/31 タイ)
- ☆梅崎崇作講師「北京実験力学国際会議での論文発表」(10/6-10/14 中国)
- ☆長田重慶教授「歯車の設計製作に関する講演、指導」(9/22-10/5 台湾)
- ☆村川正夫助教授「高圧加工技術の調査」(10/9-10/22 ポーランド)
- ☆石井治教授・吉村浩教授「華中工学院での講義、技術指導」(10/21-11/8 中国)
- ☆仲嶋正之部長・竹内淳彦教授「華中工学院との学術協定に関する打ち合わせ」(10/21-11/4 中国)
- ☆柳沢章助教授「金属短繊維複合材料の技術交換と指導」(10/24-11/2 中国)
- ☆北後寿教授「建築学会メキシコ地震調査団員として災害現地調査」(11/3-11/13 メキシコ)
- ☆山田忠弘教授「風力エネルギー利用に関する技術シンポジウム」(11/20-11/29 西ドイツ、フランス)
- ☆三浦朝郎学長・廣瀬治男教授・藤田則夫主任「東南アジア諸国の工業教育事情調査」(11/24-12/8 インドネシア、シンガポール、マレーシア、タイ、中華民国)

学生特別寄稿

Experienced

アメリカ・メキシコの旅

電気工学科三年 高橋 資人
(埼玉県立川越工出身)

ノラマが眼前に展開した。何もない岡と、白さが少しばかり不思議なアスファルト道路が左にカーブして、その先に夏が居る。四方八方からの水分を集めてきたが厚い雲が、朝のスコールを引き起こし、それでもずぶ濡れになって走り続けた。一番美しいと感じたビーチの横にバイクを止め、冷えた体で海に入る。水は驚くほど暖かい。生命の源がそこにはあったような気がする。体に再び行動力が戻ってくるころ、この海は、青く広い海は、都会の生活の内に生じた心の隅々に残っている汚れた部分までも洗い流してくれることに気付いた。

イスラ・ムヘレス（スペイン語で女の島という意味）という小さな島に僕たちは来ていた。メキシコのユカタン半島の南東に位置するこの島は、全長約十キロ、幅は五百メートルぐらいだろうか。どこにでも手が届きそうな大きな島。僕たちは心から笑っていた。限りなく続く純白のビーチと宝石以上に美しく輝くエメラルドグリーンの海は、さながら永遠の夏の象徴のようだった。ずっと昔から求め続けていた永遠の夏を二人だけの私有物にしてしまったのだ。まるで天使にでもなったように微笑み続けた。

日本ではもう走っていない青のスポーツカーに乗って街はずれの海辺を目指すと、今だかつて見たことのない大パ



イスラ・ムヘレスの若者たち(後列左から二人目が高橋君)

あの時の気持ちは今も忘れられない。「言葉は旅の大切な道具なんだな」って思った。そしてその道具は使えば使うほど使い勝手が良くなり、その土地での生活を楽しくさせる。夜八時三十分を過ぎたあたり

と言われた所がどうなっているか見に行きた。ダウスタウンから少しはずれば、危険もあちこちに転がっていた。同じ民族の人々が集まって住む所には、暗いムードの場所が数多く存在する。廃墟のようなアパートの下に黒人の婦人が、信じられないほど多くの子供たちを抱き、立ち話をしていた。車には弾丸が貫通した穴が数箇所あり、パン代をせがむ老婆がたむろする人ごみを抜け、もうそろそろやばいかなあと思ったとき、後ろから背の高い浮浪者に声をかけられた。Do you have time、答えずに通り抜けた。右手にも、左手にも、何も持たず、ジーンズにスニーカーで歩いた。ときにはゴッドのような所へ足を踏み入れた。歩いていたが、こんなときほど、生きていることを実感したときはなかった。毎夜毎夜、僕たちが泊まったモーテルの前を、はげしくパトカーが走り、やがて、ゴットという大都会特有の低いうめきの中に消えていくのが、いかにも口サンゼルスらしい。熱い街だ。

平和な島の中で子供たちは十二時ぐらいまで遊びまわると遊ぶといっても、島に一つの島にリゾートに来ていたドイツ人と話をしたとき、かれは世界の大部分をリゾート旅行したが、この島はその中で

目標にウエストコースト行きを置いた。大学に入ったら絶対行こうと思いつけていた。案外容易に旅行資金ができて、昨年の夏、それが実現したら、今度はもっと青い海を見たくなったというわけだ。

毎日ビーチに通ったせいもあるが、現人以上に真っ黒に日焼けした。なにしろ爪が光って見えるくらいである。そして、メキシコ料理のパーティーと呼ばれ、地元のダンスパーティーやコンパ（メキシコ風）にも参加させてもらい、島に着いて二週間がたつころ、二人とも日本人のおもかげはまったくなかった。「日本に帰っても、この島の時間の軌道から抜けられなくて、社会復帰がむずかしいのでは」なんていうことをよく二人で話したものだ。

飛行機のリコンファームができなくて、大韓航空のロビーでもめたのと、カンクンではホテルがなくて一泊二万円のVIPルームに泊まって痛い出費をしたのを除けば、百点満点の旅だったと思う。二年間で百万円以上の「授業料」を払ったせいか、普通程度に英語が話せるようになったのも旅の成果かもしれない。でも英語の評価はいつも「C」ばかりだ。

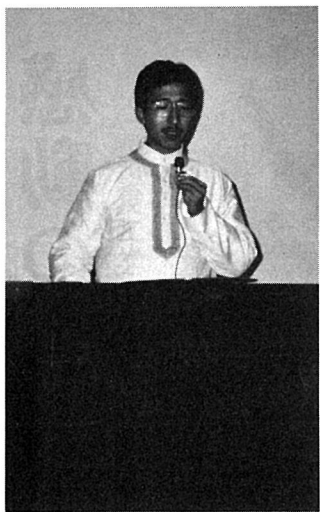
僕たちははたして英語ができるわけでもない、簡単に旅行費用をつくることもできない。ただ、一片の好奇心と根性だけで行動する。だから、危ない所なら、危ないのを確認するまで入っていく、納得するまで歩く。既成の旅のようないびつな旅はいいけれど、手造りの自分たちだけの旅ができた。そうしているうちに過去の「経験」から、ここまで

口とらえて老いを迎える時も、日々旅にして旅をすまかとする。故人も多く旅に死せるあり。僕は旅が好きだ。奥の細道のように東北路を自転車であつたこともある。旅をしていると、人生という旅の中にいる自分を見つけるような気がする。そして、中学生だった私が、初めて旅をしてからずっと、旅を続けている。こんどはどこへでかけようか。忙しい生活の旅の途中にふとそう思う。

本学OBでは初めて

小田桐氏特別講演

十一月二十八日午後四時三十分から、四〇二教室で、本学機械工学科OBの小田桐久夫氏による特別講演が催された。講演の題目は、「バングラデシユの明日——草の根からの報告——」。



小田桐氏は、青年海外協力隊の一員として、昭和五十七年十月にバングラデシユに渡り、現地の職業訓練校で溶接の技術指導にあたっていたことは、本紙の第三十五号で紹介した。

氏自身の目から見たバングラデシユを、スライドを使いながら説明し、現地での体験談を語った。

本学OBによる特別講演は初めてであり、学生たちは驚きや感動の面持ちで、「兄貴」の講演に聴き入っていた。

介したが、今回の講演はその総まとめともいえるべきもの。三年間にわたる現地での生活・指導体験をふまえて、同

メキシコに来てまず直面した問題は、どうやってホテルを探るかということだった。持参したスペイン語のハンドブックを見ながら、身振り手振りでも説明してみる。しかし、意外と簡単に室が取れた。「ドス・ノッチェス」(TWO NIGHTS)という言葉がキーワードとなったのだ。異国の地で、ほんの一言が話が通じたのは、本当におかしかった。なんだかわからない変な言葉を自分が話したような感じがして、また、それが通じてしまった

タクシーの内での運転手との会話、バスの中のお年寄りの会話。ありとあらゆる会話はすべて英語でしているのに、それを特別に感じさせないのが、日本で語学を学ぶこととの大きな違いだ。英語ができれば素敵な恋をすることも、あこがれのスターと話をすることだってあるかもしれない。



“夢の時”を駆け回ったバイクと高橋君

僕が昨年カナダ留学に参加したきっかけは、高校三年生のとき、それまでの目標だった高校総体に参加し、南国鹿児島県を一目見たことに端を発している。あの青い海を見たとき、今度はもっと青い海を見てやろうと、新たな

一年前に同じクラスの子と、保君と、予算五十万円での旅を計画した。